

パトナム・モーゲージ・ セキュリティーズ・ファンド

米国籍オープン・エンド契約型
公募外国投資信託(米ドル建て)

交付運用報告書

作成対象期間

第24期(2017年10月1日～2018年9月30日)

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社までお問い合わせください。

その他の記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会員のウェブサイト(<http://www.sc.mufj.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、パトナム・モーゲージ・セキュリティーズ・ファンド(以下「ファンド」といいます。)は、このたび、第24期の決算を行いました。

ファンドの投資目的は、元本確保と一貫性を有すると管理運用会社が考える高い利回りのインカム収益を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

クラスM受益証券

第24期末	
1口当たり純資産価格	12.43米ドル
純資産総額	10,342,103米ドル
第24期	
騰落率	-0.94%
1口当たり分配金合計	0.40米ドル

(注1)騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

(注2)1口当たり分配金は、税引前の分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

管理運用会社

パトナム・インベストメント・マネジメント・エルエルシー



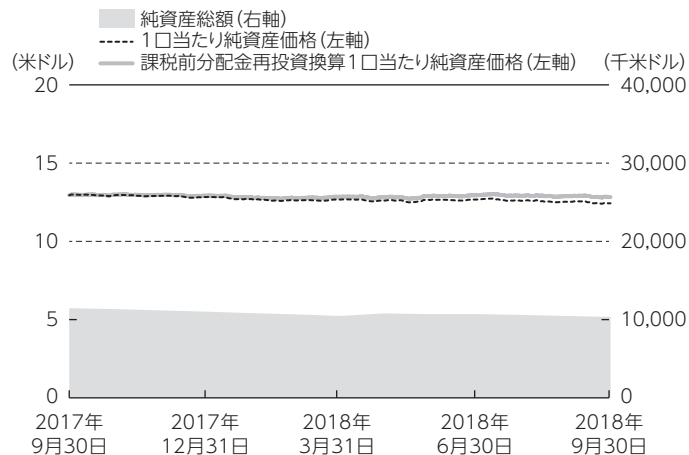
代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

運用経過

■ 当期の純資産価格等の推移

クラスM受益証券



1口当たり純資産価格	
第23期末	12.95米ドル
第24期末 (1口当たり分配金額)	12.43米ドル (0.40米ドル)
騰落率	-0.94%

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注2) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、第23期末(2017年9月30日)の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注3) ファンドにベンチマークは設定されていません。

■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

後記「投資環境について」ならびに「ポートフォリオについて」をご参照ください。

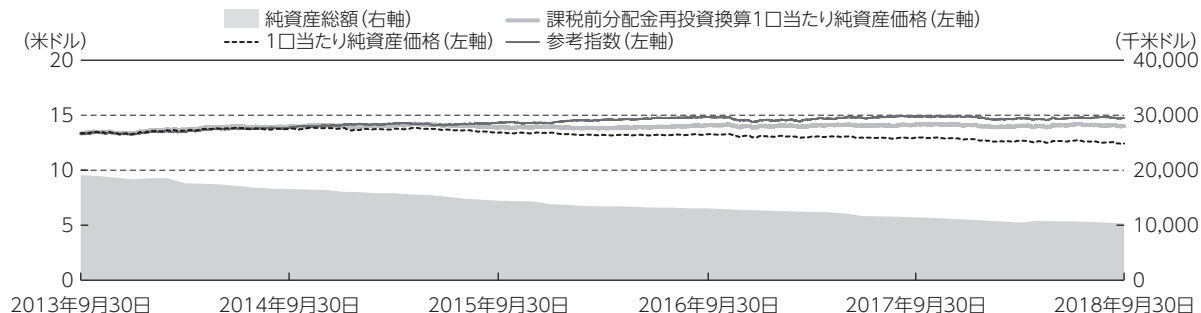
■ 費用の明細

項目	項目の概要																			
管理運用報酬	<p>報酬は、月次のファンドの平均純資産に対して適用される料率で計算されます。料率は、管理運用会社が管理するすべてのオープン・エンド型ファンドの純資産総額(当該資産の「二重計算」を回避するために必要な範囲において、他のパトナム・ファンドに対して投資されるファンドの純資産および他のパトナム・ファンドにより投資されるファンドの純資産を除き、当該月の各営業日の終了時に決定されます。)の月額平均(「オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド平均純資産総額」)に基づきます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド</th> <th>平均純資産総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50億米ドル以下の部分について</td> <td>0.550%</td> </tr> <tr> <td>50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について</td> <td>0.500%</td> </tr> <tr> <td>100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について</td> <td>0.450%</td> </tr> <tr> <td>200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.400%</td> </tr> <tr> <td>300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について</td> <td>0.350%</td> </tr> <tr> <td>800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.330%</td> </tr> <tr> <td>1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について</td> <td>0.320%</td> </tr> <tr> <td>2,300億米ドル超の部分について</td> <td>0.315%</td> </tr> </tbody> </table>	オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド	平均純資産総額	50億米ドル以下の部分について	0.550%	50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について	0.500%	100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について	0.450%	200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について	0.400%	300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について	0.350%	800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について	0.330%	1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について	0.320%	2,300億米ドル超の部分について	0.315%	<p>ファンドの管理運用業務およびファンド資産に関する投資顧問業務および日々の投資運用業務の対価として管理運用会社に支払われます。</p>
オープン・エンド型ミューチュアル・ファンド	平均純資産総額																			
50億米ドル以下の部分について	0.550%																			
50億米ドル超 100億米ドル以下の部分について	0.500%																			
100億米ドル超 200億米ドル以下の部分について	0.450%																			
200億米ドル超 300億米ドル以下の部分について	0.400%																			
300億米ドル超 800億米ドル以下の部分について	0.350%																			
800億米ドル超 1,300億米ドル以下の部分について	0.330%																			
1,300億米ドル超 2,300億米ドル以下の部分について	0.320%																			
2,300億米ドル超の部分について	0.315%																			
(副管理運用報酬)	<p>(管理運用会社は、副管理運用会社が運用しているファンド資産の平均純資産総額の0.25%の料率で副管理運用会社に支払います。)</p>	<p>(ファンド資産の一部に関する投資顧問業務の対価として管理運用会社から副管理運用会社に支払われます。)</p>																		
保管報酬	<p>ファンドと保管会社が随時合意したところにより、ファンド資産から、毎月、当該月中のファンド資産の日々の平均純資産総額に基づく合理的な保管報酬を受領します。</p>	<p>保管業務の対価として保管会社に支払われます。</p>																		
投資者サービス代行報酬	<p>ファンドの平均資産の年率0.250%を超えないものとします。</p>	<p>投資者サービス代行業務の対価として投資者サービス代行会社に支払われます。</p>																		
その他の費用(当期)	<p>0.35%</p>	<p>受託者報酬および費用、販売計画報酬、管理事務報酬ならびにその他のすべての費用</p>																		

(注)各報酬については、目録見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」については運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれています。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

■ 最近5年間の純資産価格等の推移について

クラスM受益証券



	第19期末 (2013年9月30日)	第20期末 (2014年9月30日)	第21期末 (2015年9月30日)	第22期末 (2016年9月30日)	第23期末 (2017年9月30日)	第24期末 (2018年9月30日)
1口当たり純資産価格 (米ドル)	13.34	13.75	13.40	13.26	12.95	12.43
1口当たり分配金合計 (米ドル)	-	0.20	0.28	0.34	0.36	0.40
騰落率 (%)	-	4.58	-0.53	1.49	0.41	-0.94
参考指数の騰落率 (%)	-	3.78	3.43	3.61	0.30	-0.92
純資産総額 (千米ドル)	19,102	16,562	14,451	13,059	11,452	10,342

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびファンドの参考指数は、第19期末(2013年9月30日)の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注2) ファンドの参考指数はブルームバーク・パークレイズ・US MBS・インデックスです。

■ 投資環境について

当期は、米連邦準備制度理事会(FRB)による断続的な政策金利引き上げの影響を受け、金利感応度の高い債券セクターは全般的に逆風に晒されました。参考指数で見ると、ブルームバーク・パークレイズ・US MBS・インデックス(Bloomberg Barclays U.S. MBS Index)の年間騰落率は-0.922%となりました。

■ ポートフォリオについて

相対パフォーマンスにプラスに寄与した戦略と保有銘柄について

モーゲージ・クレジットのポジションでは、エージェンシー・クレジット・リスク・トランスファー証券(CRT)への配分が相対パフォーマンスに最も貢献しました。強固な担保に裏付けられた比較的高い利回りや住宅用不動産価格の上昇を背景に、CRTは、投資家からの、総じて好調な需要の恩恵を受けました。また、格付機関による一部のCRTトランシェの格上げも、担保価値の先行きに対する見通しが改善したことから、投資家の投資意欲を高める方向に作用したとみられます。

さらに、メザニン商業用モーゲージ証券(CMBS)の保有は、スプレッド(クレジットリスク債券の利回りと同等の満期の米国国債の利回りとの格差)が徐々に縮小するにつれてパフォーマンスに寄与しました。メザニンCMBSは、商業用不動産ローンに裏付けとして組成された債券の中で資本構造において相対的に低位に位置しています。メザニンCMBSは、より高格付けの債券に比べて利回り面で優位性があり、元本の保全性も十分に備わっています。

期限前償還リスク戦略は、参考指数に対してやや貢献しました。2017年8月に米国住宅・都市開発省(HUD)が発表した規制変更の恩恵を引き続き受けました。この規制変更により、リバース・モーゲージの保有者が借り換えを行う動機が低下し、これらの証券に対する需要が高まりました。

当期中、米国の長期国債利回りが総じて上昇傾向だったことが、政府機関系インタレスト・オンリー・モーゲージ担保債務証券(IO CMO)のポジションに寄与しました。住宅ローン金利の上昇や銀行引受基準の厳格化などを背景に借り換え行動は抑制された状態が続きました。しかし、当期後半には、IO CMOの原資産である住宅ローンの期限前償還スピードが予想を上回ったため、当期前半の利益の大部分を相殺する結果となりました。

金利およびイールド・カーブ戦略について

期間構造戦略もパフォーマンスに大きく貢献しました。ファンドのデュレーションは概ね参考指数よりも短かめに維持していたので、このポジションは、イールド・カーブ全体が上昇した1月と2月に特に有益でした。

相対パフォーマンスを悪化させた要因について

期限前償還戦略の中で「モーゲージ・ベシス」戦略は、カレント・クーポンの30年物エージェンシー・パス・スルー証券と米国30年物国債の利回り差を利用する戦略ですが、パフォーマンスを一部悪化させました。

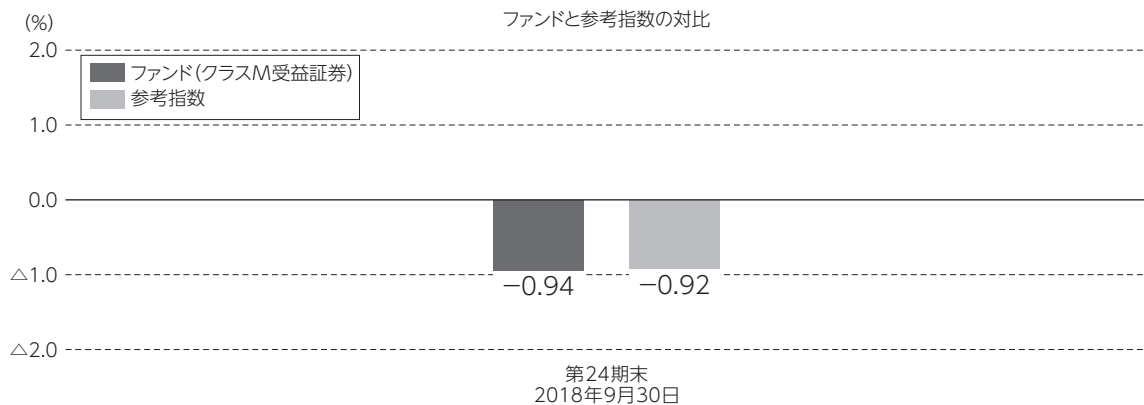
デリバティブの使用について

CMBXを利用して、CMBSのエクスポートを獲得するために、クレジット・デフォルト・スワップを利用しました。(CMBXとは特定の年に発行されたCMBSのバスケットを参照するインデックスです。)また、ファンドのデュレーションやイールド・カーブ戦略に内在するリスクをヘッジすると共に、CMO保有に伴う期限前償還リスクを分離し、全体的なダウンサイド・リスクを管理するため、金利スワップおよびオプションを利用しました。さらに、ファンドのイールド・カーブ戦略の管理の一手段として先物を活用しました。そしてファンドのセクター・エクスポートを獲得するため、市場の特定部分のエクスポートを獲得するため、トータル・リターン・スワップを使用しました。

分配金について

当ファンドのクラスM受益証券の分配金は、2018年7月に0.031ドルから0.043ドル、2018年11月には0.047ドルに引き上げられました。この引き上げは、当年度中にポートフォリオが得た金利収入等が増加したことによるものです。

■ 参考指数との差異について



(注) ファンドの参考指数はブルームバーグ・バークレイズ・US MBS・インデックスです。

■ 分配金について

当期(2017年10月1日～2018年9月30日)の1口当たり分配金(税引前)は下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

クラスM受益証券

(金額:米ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金 (対1口当たり純資産価格比率(%)(注1))	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額(注2)
2017年10月16日	12.97	0.030 (0.23%)	0.06(注3)
2017年11月14日	12.91	0.030 (0.23%)	-0.03
2017年12月14日	12.87	0.030 (0.23%)	-0.01
2018年 1月16日	12.80	0.030 (0.23%)	-0.04
2018年 2月13日	12.63	0.030 (0.24%)	-0.14
2018年 3月14日	12.62	0.031 (0.25%)	0.02
2018年 4月16日	12.66	0.030 (0.24%)	0.07
2018年 5月15日	12.52	0.030 (0.24%)	-0.11
2018年 6月14日	12.65	0.031 (0.24%)	0.16
2018年 7月16日	12.68	0.043 (0.34%)	0.07
2018年 8月14日	12.56	0.043 (0.34%)	-0.08
2018年 9月14日	12.50	0.043 (0.34%)	-0.02

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%)=100×a/b

a=当該分配落日における1口当たり分配金

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額=b-c

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金

c=当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2017年10月16日の直前の分配落日(2017年9月14日)における1口当たり純資産価格は、12.94米ドルでした。

今後の運用方針

今後の見通しについて

米国経済は引き続き着実な成長が見込まれると思われます。さらに、インフレ率はやや高めではありますが、相対的に良好な状態が続くであろうと考えています。その結果、債券利回りは上昇する傾向にあると考えています。また、金利の上昇が資産市場の大きな混乱になるとは考えておりません。投資家はたとえ金利が上昇してもリスク主導型資産はある程度のパフォーマンスを実現できるであろうと考えるようになってきていると思われます。

最も魅力的な市場分野について

モーゲージ・クレジットについては、引き続き総じて良好な見通しが続いています。商業用不動産のファンダメンタルズは、雇用の拡大、低金利および景気の拡大などに支えられ、引き続き安定的に成長するとみています。地方のショッピングモールについては、若干の損失が予想されますが、多くのショッピングモールが新しいタイプのテナントを誘致するためにそのスペースを再利用しようとしていることに期待できます。最終的には、これらの問題は、BBB格のCMBSのごく一部のトランシェの損失にとどまるであろうと考えています。

CMBSの銘柄選択については、2011年から2014年にかけて発行されたBB格のメザニン・トランシェに引き続き注力していく方針です。また、スプレッドの拡大が市場のこの部分のリスク/リターンの魅力を高めてきたと考えており、A格およびBBB格のCMBXシリーズ6のエクスポージャーを引き続き選好していきます。

ファンダメンタルから見て政府系CRTを引き続き選好していきますが、バリュエーションの観点からは慎重になってきています。CRTの中では新発債よりも有利なリスク/リターンの側面を提供すると考えられる、発行から数年経過した既発債に焦点を当てていきます。

また、政府機関IO CMOには引き続き投資妙味があると考えます。期限前償還リスク全般と共に、比較的厳しい住宅ローン貸出基準による借り換え抑制が続くと見られるためです。

最後に、リバース・モーゲージIOを引き続き選好していく所存です。リバース・モーゲージIOは、ファンドの分散の強化に加えて、低い金利感応度、安定的な期限前償還スピードおよび投資妙味のあるイールドスプレッドを兼ね備えていると考えております。

お知らせ

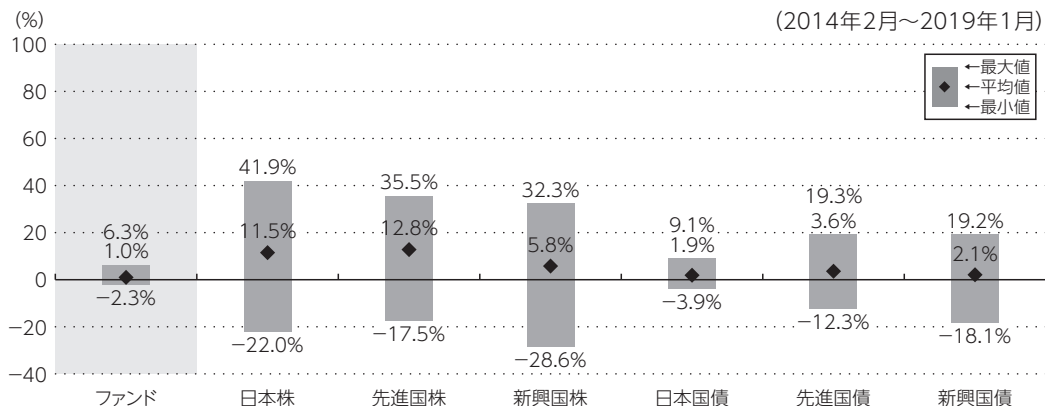
該当事項はありません。

ファンドの概要

ファンド形態	米国籍オープン・エンド契約型公募外国投資信託
信託期間	無期限
繰上償還	ファンドまたはいずれかのシリーズもしくはいずれかのシリーズのクラスは、①受託者がファンドの受益者または当該シリーズもしくはクラスの受益者に書面で通知することにより、または②(i)議決権を有する各シリーズまたはクラスの発行済受益証券の50%超、もしくは(ii)当該目的のために招集された総会において、議決権を有する各シリーズまたはクラスの発行済受益証券の50%超が出席または代理出席した場合、その議決権を有し、その総会に出席する各シリーズまたはクラスの受益証券の67%超の、いずれか少ない数の賛成票により、いつでも終了させることができます。
運用方針	ファンドの投資目的は、元本確保と一貫性を有すると管理運用会社が考える高い利回りのインカム収益を追求することです。
主要投資対象	ファンドは、主に、投資適格または投資適格未満のモーゲージ証券、モーゲージ関連証券および関連するデリバティブ(モーゲージ証券またはモーゲージ関連証券のエクスポージャーを取得するため、もしくは裏付証券がモーゲージ証券またはモーゲージ関連証券であるデリバティブ)に投資します。通常、ファンドは、ファンドの純資産総額(投資目的の借入れ額を加えます。)の80%以上をモーゲージ証券、モーゲージ関連証券および関連するデリバティブに投資します。
ファンドの運用方法	ファンドの運用チームはチーム・アプローチを採用しており、約90名で構成される管理運用会社の債券運用部門の一部であるマルチ・セクター債券チームの幅広いリソースを利用して運用しています。
主な投資制限	<p>議決権を有する発行済受益証券の過半数の賛成なくしては変更することができない基本的投資制限として、ファンドは以下の行為を行うことができません。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ファンドは、借入れ時のファンドの資産総額(借入金額を含みません。)の3分の1を超えて借入れをすることができません。^(注) ② ファンドは、他の発行体の発行する有価証券を引き受けることができません。ただし、ファンドが、組入証券の売却に関して、特定の米国連邦証券法上引受人とみなされる場合を除きます。 ③ ファンドは、不動産を購入または売却することができません。ただし、ファンドは、不動産上の権利により担保されている証券または不動産上の権利を表章する証券を購入することができます。 ④ ファンドは、商品または商品契約を購入または売却することができません。ただし、ファンドは、金融先物契約およびオプションを購入および売却することができ、為替予約および現物商品を伴わない他の金融取引を締結することができます。 ⑤ ファンドは、貸付けをすることができません。ただし、ファンドが投資方針に従って投資することのできる債務証券(パトナムの他のファンドが発行した債務証券を含みますが、これらに限られません。)を購入することによる場合、買戻契約を締結することによる場合または投資証券の貸付けによる場合はこの限りではありません。 ⑥ ファンドは、純資産総額の75%の部分について、同一発行体の証券への投資総額がその投資の直後においてファンドの純資産総額(現在価値)の5%を超える場合には、かかる発行体の証券に投資することができません。ただし、本制限は、米国政府、その関連機関または下部機構が発行し、または利息もしくは元本について保証する有価証券または他の投資会社が発行する有価証券には適用されません。 ⑦ ファンドは、純資産総額の75%の部分について、同一発行体の発行済議決権付証券を10%を超えて取得しません。 ⑧ ファンドは、購入の結果、純資産総額の25%を超えて一業種に投資することとなるような証券(米国政府、その関連機関または下部機構の証券を除きます。)を購入しません。ただし、ファンドは通常、ファンドの純資産総額の25%を超えて、民間発行体により発行されたか、または米国政府、その関連機関もしくは下部機構の信用に裏付けられたモーゲージ証券に投資します。 ⑨ ファンドは、認められた借入れを除き、ファンドの実質的権利を表章する受益証券に優先するいかなるクラスの受益証券も発行することができません。 <p>(注)日本においてファンドの受益証券の募集が行われている限り、ファンドは純資産額の10%を超える借入れはできません。</p>
分配方針	ファンドは通常、純投資収益を毎月1回、また純実現売買益を毎年1回分配します。日本の投資者に対しては、販売会社または販売取扱会社より、毎月末日頃に分配金が支払われます。

■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

2014年2月から2019年1月の5年間に於ける年間騰落率(各月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと他の代表的な資産クラスとの間で比較したものです。このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。



出所：管理運用会社、Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

- ・ ファンドの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ・ ファンドの年間騰落率は、ファンドの基準通貨である米ドル建てで計算されており、円貨に為替換算されておられません。したがって、円貨に為替換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。
- ・ 代表的な資産クラスの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ・ ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。
- ・ ファンドの年間騰落率は、実際の1口当たり純資産価格およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・ ファンドは、代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

○ 各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(配当込み)

先進国株・・・FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)

新興国株・・・S&P新興国総合指数

日本国債・・・BBGバークレイズE1年超日本国債指数

先進国債・・・FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債指数(円ベース)

(注)S&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、ファンドは、(株)東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)、FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)およびFTSE新興国市場国債指数(円ベース)に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

ファンドデータ

■ ファンドの組入資産の内容

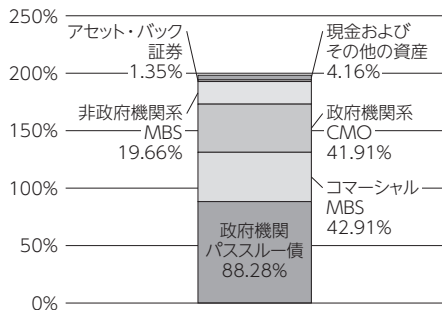
(第24期末現在)

● 組入上位資産 (組入銘柄数: 804銘柄)

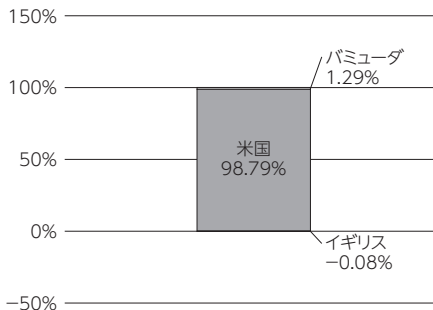
順位	銘柄	組入比率(%)
1	Fnma Fn30 Tba 03.0000 10/01/2048	11.14
2	Gnma Gii30 Tba 03.0000 10/01/2048	8.48
3	Gnma Gii30 Tba 04.5000 10/01/2048	6.58
4	Fnma Fn30 Tba 04.0000 11/01/2048	6.23
5	Gnma Gii30 Tba 03.5000 10/01/2048	6.04
6	Gnma Gii30 Tba 05.0000 10/01/2048	5.87
7	Fnma Fn30 Tba 05.5000 10/01/2048	5.53
8	Fncl 2.50 04/01/2042	5.44
9	Gnma Gii30p 783937 03.5000 11/20/2043	4.44
10	Fnma Fn30 Tba 04.5000 10/01/2048	3.59

(注)組入比率はファンドの純資産総額に対する当該資産の時価(エクスポージャー・ベース)の比率です。組入資産にはデリバティブ取引が含まれます。

● 資産別配分



● 国別配分



● 通貨別配分

当該情報については
開示されていません。

(注1)資産別配分の比率は、2018年9月30日現在のファンドの純資産総額に占める比率です。現金およびその他の資産(もしあれば)は、現金、デリバティブ、短期投資およびポートフォリオ中のその他の未分類資産の時価(エクスポージャー・ベース)の組入比率です。デリバティブ証券の包含、経過利息、表示上の異なる証券区分および四捨五入のため、要約情報が、財務書類に記載される投資組入証券明細表と異なることがあります。資産別配分は、有価証券の時価に加え、TBA契約(もしあれば)を含む特定のデリバティブ取引について定期的な支払債務を計算するための想定元本(ノーション・バリュー)を含むため、また現金がTBA契約の一定の証券の保有のための担保に充てられることがあるため、資産別配分の合計は100%にならないこともあります。組入れおよび配分は、随時変更されます。

(注2)国別配分の比率は、純資産総額に対する組入資産の時価(エクスポージャー・ベース)の比率です。

(注3)ファンドの組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■ 純資産等

項 目	第24期末	
純 資 産 総 額	1,003,691,464米ドル	
発 行 済 口 数	クラスM受益証券	831,897口
1口当たり純資産価格	クラスM受益証券	12.43米ドル

	第24期		
	販売口数	買戻口数	発行済口数
クラスM 受益証券	69,842 (0)	121,964 (25,600)	831,897 (494,900)

(注) () の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済受益証券口数です。